



穏やかな口調で語りかける上野さん

輝いています

子育てサロン「あつまれワクワクの森」講師

ひと

うえの たかこ 上野 貴子 さん

子育てママたちの居場所作り

毎

月第2火曜日。東公民館の和室からは子育て

ママたちの楽しそうな話し声が聞こえてきます。開催されているのは「あつまれワクワクの森」。テーマに合わせた絵本や紙芝居の読み聞かせのほか、季節の遊びも楽しめる評判です。講師の上野貴子さん（50歳・塚越2丁目）は親子でくつろげる場所を提供したいとの思いで活動しています。子育てサロンの一参加者だった上野さんは知人の誘いで数年前から東公民館でお手伝いをするように。しかし、コロナの影響で人と話す機会が減り、自身も子育てで悩むことが増えました。同じ境遇の人たちと話したいせつさを

感じていたそんなとき、長い間、地域のママたちから親しまれてきた「おはなしワラビン」が昨年3月で終了することを知ります。同講座の講師である園川泰子さんからの後押しもあり、「子育てママの居場所を残したい」と、今年度から「あつまれワクワクの森」をスタートさせました。

これまで参加してきた子育てサロンの良さを取り入れながら特に大事にしているのはコミュニケーション。相談や情報交換はもちろん、ママが笑うと子どもも笑顔になるとの考えからママ向けの絵本の紹介や、やってみようことのリクエストも募集しています。「それぞれの好きなことを共有して、みんなで楽しめる場所へ」。そんな上野さんの思いに共感するサポーターも増え、交流が広がっています。

ビデオ通話で会話を楽しむ「雑談カフェ」でも活動し、話はずむコツなども学んでいる上野さん。「気が向いたときに来てもらって、少しでも気持ちを楽しめるお手伝いができたらうれしい」と、にっこり。これからも子育てママたちがほっと一息つける居場所を地域につないでいきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品
蔵にあり

—No.82—



暁斎筆「団扇絵 唐大和子供遊之図」(左幅) 紙本墨画彩色 双幅

暁斎が唐(中国)と大和(日本)の子どもを一幅ずつに描き分けた掛軸の、日本の子どもを描いた作品です。山車の上には右手に鈴、左手に幣を持った獅子舞の子が片足で立って踊っています。山車の後ろには足を踏ん張って押す子、前には肩に綱を回して引く子がいます。その奥で先導する子が持つ扇子には、暁斎のトレードマークともいえる鴉が描かれています。子どもたちの躍動する姿が丁寧な筆遣いによって描かれた作品です。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

企画展「暁斎・暁翠 子ども絵」展 同時開催 特別展「『おしえ草孝行和讃』の世界」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 火・木曜日(祝日除く)、
毎月26日～末日

ところ = 南町4-36-4

入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳細 = 同館(☎441・9780)



展示会の詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎

天保2年(1831)

～明治22年(1889)